

平成26年度「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」成果報告書

団体名	国立大学法人 東京学芸大学
研究開始年度	平成26年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校名	障害種
国	東京学芸大学附属特別支援学校	知的障害

2 研究テーマ

特別支援学校小・中・高等部における一貫した読み書き学習支援のためのアセスメントと教材システムの構築と評価に関する研究

3 研究の概要

知的障害のある児童・生徒は仮名文字や漢字の習得に困難をもっている。その背景には、文字の形態を識別するという視覚的認知の弱さや、文字と読み方との対応の学習の苦手さ、文字の形態を正確に表記するという文字構成・運筆スキルの困難といった複合的な要因がかかわっている。しかし、このような複数領域の苦手さは、児童・生徒一人一人でその程度が異なるため、指導を開始する前にアセスメントを実施することが重要となる。また、通常、指導には多様なプリント教材を用意する必要があるが、児童生徒の実態に合わせた指導用教材の作成には時間を要する。本研究で活用する支援機器は、現在、学校教育現場で広く用いられているタブレット端末である。タブレット端末は知的障害がある児童生徒にも利用しやすく、教師からの口頭教示に傾注しにくい自閉症のある児童生徒にも有効である。同時に、指導する教員と学習者との間で、端末の画面を介したコミュニケーションが成立しやすいためという利点がある。ただし、指導する教員自身がアセスメントの実施から、プロフィールの作成、学習者のスキル水準に適した学習内容の選定に至る一連の手順がパッケージ化されていることが望ましい。この条件を満たした学習支援ソフトを活用することで、習得度を測るアセスメントの結果から適切な難易度の教材の作成まで、設定目標に向けた一貫性のある指導が可能となるとともに、タブレット端末を用いることにより、教員の指示を待つ必要のない自主学習や、学習者の反応に対し即座にフィードバックの提示が可能となる。

平成26年度は学習支援ソフトを開発し、タブレット端末への搭載を行うとともに、外部専門家と連携して特別支援学校教員を対象とした講習会を行った。特別支援学校小・中・高等部の児童生徒、および、公立中学校の特別支援学級の生徒へ適用し、その成果について評価を行った。

4 研究の成果及び課題

